

## 小学校配置に関する深川市民の意見を聴く会【結果】

日時：令和6年11月15日（金）

午後7時～7時57分

場所：多度志コミュニティセンター

### ■参加者 16名

（保護者4・学校運営協議会委員2・町内会役員2・市議会議員3・校長及び教頭2・その他3）

教育委員会：三浦教育長・轡田教育委員・伊藤教育部長・佐藤学務課長・  
星野学務補佐・山崎管理係長・下川主任

市長出席

### ■司会進行 伊藤教育部長

#### 1. 教育長挨拶

#### 2. 資料説明（山崎管理係長）

- ・資料1～小学校配置に関する深川市民の意見を聴く会
- ・資料2～小学校別学級数及び児童数推計
- ・別添1～深川市学校配置基本方針
- ・別添2～深川市学校配置基本方針に基づく小学校に係る対応について

#### 3. 意見交換

※以下の記録は要点を整理した概要であるとともに、個人に関する内容や単純に資料を確認する発言などは省略しています。

#### ○その他の参加者

～資料2-2の特別支援学級の児童数について、全体の児童数の減少に合わせて自然減となっていますが、これは実態に即しているのかという想いがあります。

平成から令和に至るまでの特別支援学級の児童は、横ばいまたはむしろ増えているといった状況は教育委員会も認識されていると思います。

全体は減っていくが、特別支援学級は増えていくといった見方もできるのではないかと思います。

根拠を持って資料作成されていると思いますが、その辺りのことをお聞かせいただきたいと思います。

#### ○教育委員会

～今おっしゃっていただいたとおり、全体の児童数は減少していくこととなりますが、特別支援学級に在籍する児童については増加傾向にあります。ただ、毎年どのくらい増えていくのかといったことについては、学年によっても違いますので、実態を把握し推計していくことは難しい状況です。

このことから、今回は実態として把握できる全体の子どもの数を使い、普通学級を中心とした資料を作成し説明することとしています。

## ○その他の参加者

～今の学校教育では児童が小学校にあがるときに、一人ひとりの状況のある程度把握されると思っていますが、不透明な部分もあると思います。国も幼保小の連携を提唱していることから、子どもの状況把握についてこれまでとは別な形で進めていただけたらと思っています。

市内の保育所は全て民間に移行しましたが、地域の未就学児はとても少ない状況となっています。そのような中であっても、ありがたいことに多度志の保育所には、他地域からお子さんが通ってきてくれています。

深川市の場合、各地区の民間保育園などが未就学児の保育等を担っており、それから6つの小学校にあがることとなりますが、地域で子どもを育てるといった見通しを持ったときに、地域の在り方というのは、市、教育委員会あるいは市全体の課題として再度捉えていただけたらと思います。

福祉と教育行政はこれまで縦割りとは申し上げませんが、それぞれが動いておりました。現在、国ではこども家庭庁が創設されたということもありますので、横断的に考えていただきたいと思っています。

本日のような意見を聴く会が開かれるということは、現状の維持ということもあるかもしれませんが、社会情勢が変化する中で、このままではいけないだろう、子ども達に対して知恵を絞って何かしていく必要があるのではないかという認識だと理解しています。

その点における私の考えとしては、複式学級を持つ深川小や一巳小以外の小学校を廃校にしていくということではなく、昨今、沼田町でも進められている義務教育学校、小中一貫校という方式も先行事例としてあります。義務教育学校の中で本校があって、その他の学校を分校として存続していくという形があります。

その場合には、それぞれの学校に教員の配置が可能となり、地域の特色を出すことが出来ますし、分校に対しても市が積極的に教員確保に関与することも可能です。

中学校にあがる際には、小規模校から一気に統合されますので子供たちの方にショックが大きいことが問題としてよく言われます。義務教育学校の形をとれば9年生までのカリキュラムを組むことができるため、一気に統合していくのではなく、分校から5・6年生あるいはグラデーションをかけながら交流を進めていくことができるのではないかと思います。

深川市は、プール授業や学校給食の共通化など、さまざまことを進めています。修学旅行などの行事も色々あります。いずれこの地域の子供達は中学校にあがりまとまっていりますが、義務教育学校の分校にすることで、小学校のときから何々地区だとかではなく、一つの深川地区としてまとまることのできるのかなと思います。

そうすれば子供達の中でも、多度志に住んでいるけれど深川として一体的なものや、義務教育学校の一員だという感覚が養われるのではないかと思います。

分校にしたとしても子どもの数の自然減がありますので何もしないということではなく、例えば文科省が示している「学びの多様化学校」として、授業の開始時間を少し遅らせるなども考えた中で、不登校となっている子どもの受け皿となるような取り組みも進めてはいかがでしょうか。

このほか既存の学校教育だけでなく、多度志であれば米作りに特化した授業や自然と向かい合う時間をしっかりと確保するなど、特色ある分校づくりを進めることが良いと思います。

同時に大事なものとしては、先ほどの特別支援学級の子どものことと言えば、その子の支援のために配置された教員がいたり、北空知には4か所ほどデイサービスを行う事業所があり、そうしたところがその子の放課後の対応を担っています。

特別支援学級以外の子どもでは、放課後の居場所となる学童があります。これも国や市役所では、それぞれ学校とは管轄が異なりますが、それぞれが別々に動くというような時代ではないため、子ども全体に対する市民の関心や予算を向けていく必要があると思います。

そうしたことから考えると今ある施設と学校が連携していくことが大切だと思いますので、例えば、学校内に児童発達支援の施設があるとか、一巳小や深川小のように学童保育施設があるようにもっと複合的に進めて欲しいです。

多度志小にも空き教室があるため、学童があると良いと思いますし、このほかにも小さな学校の空き教室には、地域の高齢者が活用するスペースをつくるだとか色々な可能性があると思います。

そうは言いますが、校舎は学校としてあるものなので学校や教育の独立は担保しなければならぬと思います。どんなに子どもが少なくなり、学校が小さくなったとしても、学校を学校として扱い、先生と子ども達を守った上で、地域がその場所に親しみを持って、子ども達と交流できるような取り組みを進めてほしいと思っています。

#### ○その他の参加者

～私は、勉強については親が教えてあげることにはできると思いますが、社会性を養うということは、学校生活の中でないと学ぶことは難しいと思っています。このことから通学していない児童について、教育委員会ではどのように考えているのか教えて欲しいです。

ほかに多度志中学校は、平成26年度に統合となりましたが、その時に私はPTA役員でしたので当時の協議に参加しておりました。

その中では、統合に際してスクールバスが導入されることになるのですが、バスが通学で使用する道路の整備を行うという話があったと認識しています。市と隣町の境界の課題もあろうかと思いますが、あれから10年が経過してもそれが終わっていないということを考えると、今回、道路整備が完了していない中で小学校の適正配置の協議が開始されるとなった場合、道路環境の整備が二の次、三の次となってしまうのではないかと危惧しています。

今回のテーマに直接関係ない内容ですが、市長も出席されているので、その辺りのことをお伺いしたいと思います。

#### ○教育委員会

～1点目については、現在、市教委は学校を通じてお声がけするなどしておりますので、何もしていないという状況ではないということをご理解いただきたいと思います。

また、中学校統合に伴う道路整備については、現在、承知しておりませんので確認したいと思います。

#### ○田中市長

～ご要望のありました道路については道道の関係だと思いますが、この道路は深

川市と秩父別町の二つの自治体にまたがっている道路でございまして、深川市内にある道路部分についてはかなり進んでおりますが、市外となる秩父別町内にある道路部分については、本市が行う道への要望と同じように進んでいないのかもしれないかもしれません。

常時、道には要請を続けておりますが、まだ完全ではないということについては認識しておりますので、今後、改めて確認させていただきます。

○保護者～現状として人数がかなり少ないです。もともとは、もう少しでしたが子どもの数が多いところで子育てしたいという考えから、旭川などに引っ越した家族も数人います。推計では将来の入学者が0人ということも出てきていますので、先生の数も減っていきまじ、あんなに大きな校舎において数人でやるというのは可哀そうだと思います。

保護者としては、統合を視野に進めて欲しいと考えています。

○保護者～今、話題にあったように入学者が0人という年もあるし、全校児童も少なく、遊びも限られてきます。子ども達の中での競い合いという成長も無くなってしまふのではないかと思うので、早急に統合をして欲しいと考えています。

○保護者～現在、多度志小では北新小と合同で遠足に行ったり、コロナ禍では手紙のやり取りなどの交流もありました。修学旅行に向けての交流などもありましたが、やっぱり中学校にあがるときに上手く学校生活ができるのかなという不安もあります。

#### ○学校運営協議会委員

～最終的には親の希望を叶えてあげることが良いと思いますが、個人的には親の方々とは違った考えを持っています。私の子どもは二人とも成人になっています。これまでPTAなどの活動をしてきた中で色々な場面で耳にしたことは、地域やまちの構成上、小学校、中学校、高校は欠かせないということでした。

地域から学校が無くなれば地域は崩壊するということを先生方から聞かされていました。出来ることなら学校を地域に残してくださいと言われたことがありました。

学校があるからまちが発展するという考え方や、まちがあるから学校もあるという考え方がありますが、どちらの考えにおいても学校は地域に欠かせないものだと思っています。

多度志の人口は600人を下回り、まだまだ減り続けるため学校を存続していくというのは厳しいと思いますが、これまでも結構メリットはあったと思います。

例えば、私の子ども達は西高に行きましたが、その時の先生からは「お願いしたことを必ず断るといふ子もいる中であって、多度志の子ども達は性格が良い子が多くて、例えば何かの役割をお願いしても断ることはしない。」とのことでした。

小さい学校のメリットデメリットはあると思いますが、多度志小で育った子ども達の外からはそういった評価を受けているため、先生たちが丁寧に接してくれたおかげだと思いますし、実際にそうした子ども達が社会に出ているということです。

それと先生たちが丁寧に目をかけてくれたことで助かっている子どももたくさんいるはずなので、少人数のクラスから一己などの大きなところと一緒になつた

場合、苦しい思いをする子が出るのではないかと心配しています。

私の子も自由奔放に好きなことを好きなだけやらせていますが、大学まで進学することが出来ていますので、少人数で先生に見守られながら、温床というかぬくぬくと育っていくことが決して悪いことばかりではないというふうに思っています。

今回、統合ありきで地域に話を聞いているのかと思いますが、多度志小を残して欲しいと思います。

最後に市の施策として、都会から子ども達を呼び込み、児童数を増やして欲しいです。私の子もスポーツで全国大会に行くことが出来て、そこでの知り合いが増えたことでその後の交流もあったため、多度志小において、そうした新たな交流が生まれるような取り組みを進めて欲しいです。

#### ○町内会役員

～仮に小学校が統合した場合、現在、避難所となっているためどのような考えがあるのでしょうか。

#### ○教育委員会

～今回は統合を前提としないということを基本に開催している会なので、統合した場合のシミュレーションなどはしておりませんが、仮に統合に向けた協議を行う場合は、国も地域との話し合いを十分に行いながら進めることが必要であると示しておりますので、避難所においても同じように地域の方々と協議を重ねる中で対応を検討します。

#### ○教育委員会

～皆さんからのいただきました大変貴重な意見ありがとうございました。今後どのような方向で持っていくのか十分精査して進めていきたいと思っております。

以上をもちまして、本会を終了したいと思います。

以上